

M O N T H L Y

vol.171

U P

色が長持ち 耐光インキ



夏は退色に 要注意。 耐光インキで いつまでも 美しく。

印刷物の色はなぜ落ちる？
外的要因と戦うインキづくり。

街のポスターや看板で、色が褪せているものを見たことはありませんか。印刷物の退色、その主な原因は、太陽光による紫外線などのエネルギーです。色によっては、真夏の丸一日で色がなくなってしまうこともあります。

退色は、色を成り立たせる顔料の構造が破壊される現象です。洗濯物を洗うように、色だけが抜け落ちていると考えがちですが、実際には、ある色であったものが別の物質になってしまうということです。一般には濁った色より鮮やかな色、蛍光色のような色ほど変化しやすいといわれています。

顔料開発からはじまるインキづくり

耐光インキは、太陽光をはじめとした光の影響を受けにくいようにつくられたインキです。単純な計算では、通常のプロセスカラー※インキより4倍、6倍、12倍も強いものまであります。

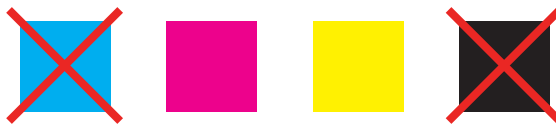
意外に思われる方も多いのですが、通常のインキに何らかの耐性成分を混ぜてつくるわけではありません。例えば、赤色の耐光インキの顔料は、まず「赤を発色」することが条件で、なおかつ、「太陽光への耐性」が強い新たな顔料を開発したり、研究により探し出すなどします。つまり、同じ赤色であっても、通常のインキ顔料と耐光インキの顔料では、化学的にいえば全く別の物質なのです。



CとKの耐光性インキはない

プロセスカラー「C」のおおもとは、フタロシアニンという成分です。この成分の化学式は血液のヘモグロビンや葉緑素にも似ていて、化学的に非常に強固です。血液や植物細胞がそうであるように、太陽光などの外的影響を極めて受けにくいことが特徴。すなわち、それ以上耐性を高める必要がないため、「C」の耐光インキは存在しません。

また、プロセスカラーの「K」のもとはスス、炭素です。小学生のころ、元素周期表で習ったとおり、炭素はそれ以上分解されません。もちろんインキとしても変化しにくいので、耐光インキの必要がありません。



※プロセスカラーとは、印刷物において基本となる4色（Cシアン・Mマゼンタ・Yイエロー・Kブラック）のインキの組み合わせによって色を表現すること、またそのようにして表現された色のこと。

耐光インキは、屋外ポスターや商品パッケージなど、長期使用が想定される印刷物によく使われます。
次号では、使用例や太陽光対策だけではない、さまざまな種類の耐性インキについてご紹介します。



この小冊子は森林認証紙を使用しています。



セザックス株式会社

<http://www.sezax.co.jp>

☐ 本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511 (代)
☐ 渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03 (3400) 9211 (代)
	5F	TEL 03 (3400) 9401 (代)
☐ 関西コア	〒530-0047 大阪市北区西天満5-8-8 VEGA VI高橋ビル別館803	TEL 06 (6131) 0410 (代)
☐ 中京コア	〒460-0008 名古屋市中区栄3-2-3 日興証券ビル4F	TEL 052 (269) 8051 (代)
☐ 下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516 (代)

株式会社セザックスクリエイティヴ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970 (代)

株式会社セザックスドキュメントソリューションズ

〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7 TEL 03 (3758) 2533 (代)



No.I290-ISO/IEC 27001

No.E2204-ISO14001 (本社・下丸子工場)

No.4412-ISO9001 (本社・下丸子工場)

